

社会科学習指導案（公民的分野）

1. 単元名 「私たちの生活と経済」～「お金」は天下のまわ

2. 単元について

『史上最長の好景気』－日本経済はバブル経済崩壊後の「失われた十年」をようやく脱し、景気回復期と言われるようになった。都心を中心とした高級感を前面に押し出した複合型高層ビルの開業ラッシュや、高価なブランド品への需要復活にその一端をうかがい知ることができる。

しかし、経済の重要な役割を担う消費の主体である、消費者の実感としてはどうだろうか。

非正規雇用形態の増加、ワーキングプアの出現など影の部分を感じ、消費者の多くが景気回復を実感できないでいるであろう。

加えて、業界大手と言われる企業の賞味期限ごまかしの発覚やウナギ・野菜等の中国産食品など「食の安全性への不安」、電化製品の不具合によるケガや欠陥による回収の続発など「工業製品の安全性への不安」、少子高齢社会に入った中で年金や老後の生活など「今後の社会保障への不安」等、世の中に数多くの不安が存在し、いわゆる「リスク社会」が拡大している。

そして、「お金」に絡んださまざまな問題の報道もますます増大している。例えば「振り込め詐欺被害の続発」や「通常では考えられない利殖話による被害」「悪徳商法による被害」「多重債務や自己破産者の増加」など、具体例は枚挙にいとまがない。

なぜ、このようなことが起こってしまうのか、そして後を絶たないのだろうか。

もちろん個人の資質に因るところが大きい。しかし、一方では「消費生活に関する事柄」をきちんと学習しないまま（教えられないまま）成長し、そのために危険をふりかえる機会があったにもかかわらず、深みにはまっていると言えるのではないだろうか。さらに、過度の個人生活尊重のライフスタイルの浸透や、家庭や地域における教育力（抑止力）が低下してしまっている現状が「誰にも聞けずにズルズルと」「気づいた時には手の施しようがないところまで行ってしまっている」という結果を生んでしまっているとも考えられる。

「お金を使う・貯める・得る・借りる」という行為は、必要な情報を集め、慎重に考え、納得した上で選択されることが大切である。より良い社会生活を送るため、しっかりと意思決定とそれを行うために必要な知識や方法を習得することは、こうした不安が多い「リスク社会」であるからこそ、一層大切になっていると考える。

そこで、経済を考える際に中心となる重要な事項であり、且つ、生徒にとっても日々の生活のなかであって身近で関心の高い事柄でもある「お金」をキーワードに据え、単元「『お金』は天下のまわりもの」を開発することとした。

現行学習指導要領の公民的分野「（2）国民生活と経済 ア 私たちの生活と経済」において、その目標は「身近な消費生活を中心に経済活動の意義を理解させるとともに、価格の動きに着目させて市場経済の基本的考え方について理解させる。また、現代の生産の仕組みのあらましや金融の働きについて理解させるとともに、社会における企業の役割と社会的責任について考えさせる。」となっている。また、その取り扱いとしては「身近で具体的な事例を取り上げ、経済活動がさまざまな条件の中での選択を通じて行われている点に着目させ、市場経済の基本的な考え方を理解させること。金融の働きについては、具体例を取り上げて理解させること」となっている。

つまり、身近な事柄をスタートとして、経済について考えさせる重要性が指摘されている。

従来、経済の学習においてはどちらかという用語の解説や説明が多くなりがちであったが、

商品購入時にはいくつかの店舗の価格（値段）を比較したり、ポイントカードによる割引の利用等をあれこれと考えたりする生徒の実態に即してみると、身近な事例を取り上げ、消費者の立場から「お金」という視点で市場経済や金融のしくみ等の経済の基本構造について学習させることの方が現実的であり、実感を伴って理解できる。

社会の要請としても、「お金」に関わる分野での学習の必要性が求められている。その一例が金融教育であり、「お金や金融のさまざまなはたらきを理解し、それを通じて自分の暮らしや社会について深く考え、自分の生き方や価値観を磨きながら、より豊かな生活やよりよい社会づくりに向けて、主体的に行動できる態度を養う」ことをその目標を掲げている（金融広報中央委員会編「金融教育プログラム」より）。上述のような「お金」に絡んださまざまな問題が続出している現状もふまえ、将来の健全な消費生活に向けて必要な基礎的知識の獲得と適切な行動のあり方についても考えさせていきたい。

以上のような考えにもとづいて本単元を実践することとし、本時においては、「お金」と同様に広く使われているクレジットカードを学習材として取り上げ、「クレジットカードと上手に関わるにはどのようにすればいいのか」と題する授業を展開する。

クレジットカードを学習材に取り上げるのは、以下の理由による。

第一の理由は、クレジットカードから「現実の経済活動」を知ることができるからである。

クレジットカードは、利用者（消費者）・カード会社・加盟店・銀行等が関わる経済活動であり、「契約」にもとづく「信用経済」の最たる例であること、また、それぞれが消費者の購買意欲を喚起しながら利潤を追求していること、クレジットカードの利用の拡大は個人消費の拡大であり経済の活性化へとつながっていくこと等、実際に世の中で行われている経済活動の姿を知ることができる。

第二の理由としては、既に国民生活に幅広く利用されているためである。多様な支払い方法の一つとして幅広く利用されているクレジットカードは、その発行枚数が2億8000万枚を超え（2006年12月末現在）、その利用額はショッピングで32兆1000億円、キャッシングで7兆5000億円に上っており、生徒の家庭でも所有・利用しているものと考えられる。加えて、テレビコマーシャルも流されており、街のあちこちには無人キャッシング店舗があること、また、学区内にもクレジットカード利用可のステッカーが貼ってある店舗が数多くある等、生徒にとって見聞きできる範囲にあるためである。

第三の理由としては、「お金の絡むリスク」を示す具体的事例の一つだからである。クレジットカードは便利な反面、無計画な利用に伴い返済不能となったり、最終的には自己破産したりする者の増加の原因にもなっている現状がある。カード社会の中でリスクとどう関わっていくことが大切なのか等、利用者側に必要な知識や技能は何かを考えなければならない要素を含んでいるからである。いずれカード所有者となるであろう存在として「賢い消費者（利用者）」となるための予習的学習と位置づけることができ、昨今その必要性が叫ばれている金融教育の観点にたった理由である。

そこで、実際の授業においては、まず、前時に貨幣に関する基本的事項をおさえた後、「クレジットカードとは何か」を理解し、そのメリット・デメリットを考察する。その上で、クレジットカードと上手に関わるためのポイントを読み込んだ「アドバイスカード」を作成する。この作成過程においてゲストティーチャーとの意見交換の場を設定し、専門的な立場からの意見も取り入れながら、より具体的でわかりやすい「アドバイスカード」作りに取り組みせ、「現在および将来の消費の主体（消費者）として、健全な消費生活を営むに必要な知識や技術を身につける」ための一助となる機会とすることをねらいとした展開を行う。

このように、世の中で広く利用されている事物であるクレジットカードを取り上げ、いずれカード所有者となるであろう立場から学習していくこと、その過程で専門的知識をもった存在であるゲストティーチャーとも関わることで、また、学習した内容をもとに「クレジットカードと上手

に関わるためのアドバイスカード」を作成し他へも紹介していくこと等を通して、本部会のねらいである「社会と関わることによって、よりよい社会を作り上げようとする意思と行動力につながる力の育成」をめざしたい。

3. 研究との関連

前掲「社会への関わり構造図」にあるように、本部会では「社会と関わることによって、よりよい社会を作り上げようとする意思と行動力につながる力の育成」をめざし、その実現のために授業実践に際しては四つの以下の「授業基本コンセプト」を掲げて授業構成を考えている。

- 基本コンセプト① 社会科の中で「生徒と社会生活との関わり」を重視すること
- 基本コンセプト② 教師主導の講義型の授業だけでなく、生徒の主体性を育てる活動場面をつくること
- 基本コンセプト③ 現実の社会との活動・交渉・話し合い等を経験させることによって実践的態度・行動しようとする力を育てること
- 基本コンセプト④ 社会科にとどまらず、積極的に他教科・時間等と連携をとること

(1) 本単元と基本コンセプトとの関連

本単元においても授業基本コンセプトを取り入れた展開を行う。特に、本時の学習材であるクレジットカードに関しては、生徒はクレジットカードそのものは持っていないものの、すでにその他のカードを複数枚持って利用しており、まさに「カード社会」の中で生活している。加えて、クレジットカード取り扱い可のシールが貼られている店舗が学区内に何軒もあり、クレジットカード利用に関わる事を日常的に見聞きできる。

こうした状況をふまえた上で、いずれクレジットカードを持つ存在となることが予想される生徒が、クレジットカードについて学習することは「信用経済」や「契約」等の経済のしくみを知ることにもつながり、基本コンセプト①でいう「社会生活との関わりを重視すること」とも合致する。

また、ゲストティーチャーとの意見交換や保護者を含めた身近な大人からの取材（聞き取り）が体験できることや、クレジットカードでの支払いを想定した模擬体験も行うことができることは基本コンセプト②・③に合致する。

さらに、「社会科にとどまらず、積極的に他教科・時間等と連携をとること」という基本コンセプト④についても、クレジットカードによる支払いにおいて重要な金利計算については数学、消費者教育の観点からは家庭科との連携が考えられ、その達成は十分可能である。

最終的に「クレジットカードと上手に関わるためのアドバイスカード」を作り、学習の様子とともに関係機関や保護者、他学校へも紹介し、本部会の考える望ましいめざす生徒像にある「社会を良くするための提言をすること」をめざしたい。

(2) 「知の構造化」部会との関連

授業基本コンセプト①、②での関連を考えている。本単元の取り扱いにあるように、まずは身近な事象を取り上げるという基本にたつて、生徒の実生活における見聞や既に体験している事柄を見つけ出させ、それを出発点として経済活動のもつ機能や価値について理解をさせる。そして、その理解をさらに進めて「例えてみるとどういうことか」「言い換えてみるとどうなるか」「比べてみるとどうか」「まとめてみるとどう言えるか」という形で深めていく。本単元では『「お金」って何?』や『価格（値段）の不思議』において展開する。

(3) 「価値の摸索」部会との関連

授業基本コンセプト③・④での関連を考えている。経済的事象を理解するには、多面的・多角的にとらえること、つまり、複数の視点から考え、出てきた内容を分類・整理することを通して公正に判断することが望ましい。本単元の『お得はどっち？～円高・円安～』では立場や時期、品物など条件を変えることによって損得はどう入れ替わるかを考えていく。

そのためには学習スタイルの工夫も必要である。専門的立場からの見方や意見を教室の内外に求めていくこと、そこで得た気づきや知識を再度吟味し、単に正誤だけでなく「こうしたら何が変わり、そうなればどれを中心（優先）としてとらえていくか」までを考えさせ、公正に判断する力の育成の一助としたい。

4. 生徒の実態

本授業を実施す

た。(調査人数は33名)

設問 1	あなたはカードを持っていますか。	はい 33名	いいえ 0名
	持っているとした人は、どのようなカードを持っているか、書きなさい。 (複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレホンカード・図書カード 30名 ・商店等のポイントカード 27名 ・ビデオ店等の会員カード 24名 ・Suica・Edy 11名 ・銀行等のキャッシュカード 6名 ・その他 3名 	
設問 2	カードで困ったことがありますか。	ある 5名	ない 28名
	「ある」と答えた人は、具体的に書いてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・カードが傷ついて使えなかった。 ・財布をなくして、一緒にカードもすべてなくしてしまった。 ・ポイントがたまったので使おうとしたら店が閉店していた。 ・暗証番号を忘れてしまった。 ・診察カードをなくして診察が受けられなかった。 	
設問 3	クレジットカードを知っていますか。	知っている 25名	知らない 8名
	「知っている」と答えた人は、どこで知りましたか。(複数回答可)	<ul style="list-style-type: none"> ・テレビのCM 16名 ・使う場面を見た 12名 ・店に貼られたステッカー 6名 	
設問 4	クレジットカードを使ってみたく思いますか。思いませんか。 また、その理由を書いてください。	使ってみたくと思う 12名	
		<ul style="list-style-type: none"> ・手軽に払うのも簡単 ・高いものを買うとき便利 ・インターネットでも使える ・現金を持たずに済む ・どこでも使える ・かっこよさそう 	
		使ってみたくと思わない 21名	
		<ul style="list-style-type: none"> ・よく理解していない ・現金で払いたい ・衝動買いしそう ・詐欺とか多発してて危険かも ・まだ早い ・金銭感覚鈍りそう 	

「カード社会」と言われるほど国民に広く利用されている各種カードだが、設問1からわかるように生徒全員が何らかのカードを所有している。中学生の日常生活の中にもカードは広く浸透しており、さまざまな場面で利用していることがわかる。

その一方では、設問3・4にあるように、利用していく中で5人の生徒が困った経験を持っており、カードの持つ利便性の裏腹にあるデメリットを既に味わっている。

今回の学習材として取り上げるクレジットカードについては、複数のカード会社のコマースが流されており、家庭でも支払い等でのクレジットカードの利用は行われていると思われる。

しかし、生徒全員がその存在を知っているわけではない。当然、クレジットカード本来の利用方法についてはしっかりとした認識は薄く、将来の利用についても意外に積極的なものでなく、むしろマイナスのイメージを持っている生徒が多いようである。やはり、ニュース等で返済不能者や自己破産の増加を見聞きする影響がその理由としてあげられるであろう。

ただ、クレジットカードは、その発行枚数において統計上は既に国民一人あたり2枚強を所有している。最近では、クレジットカードと一体化した学生証が多くの大学で発行されるなど、わが国で利用されているカードの代表の一つとなっている現状がある。近い将来、現在の中学生の多くがクレジットカードを所有し、幅広く利用することは容易に予想される。

このような意味からすると、現在および将来の消費の主体（消費者）として、健全な消費生活を営む知識や技術を身につけさせることは必要なことである。そこで、今回のクレジットカードの学習が「社会的事象に対し積極的に、そして、適切に関わりをもとうとする姿勢を身につかせ、将来、賢い消費者として消費生活を営むための一助となること」をめざした実践としたい。

5. 指導目標

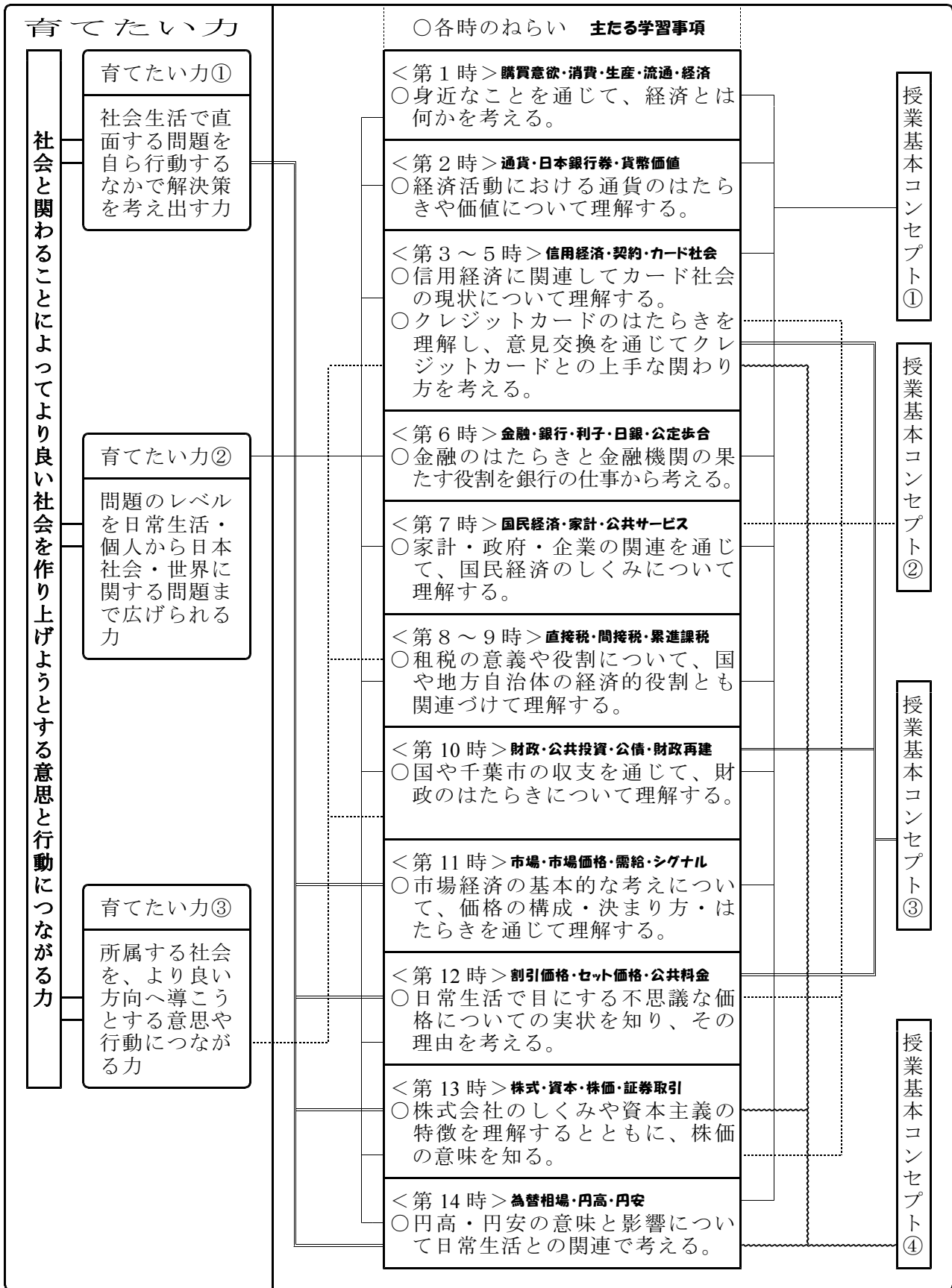
- (1) 「お金」をキーワードとして、買い物や貯蓄をはじめとしたお金の使い方等の身近な事例を取り上げ、経済についての関心をもたせるとともに、見方や考え方の基礎を育てる。
- (2) 自分の消費生活と現実の経済活動との関わりを理解させ、経済活動の意義を考えさせる。
- (3) 価格の構成や決まり方、はたらきに注目させ、市場経済の基本的な考え方を理解させる。
- (4) 銀行を取り上げ、その仕事を通じて金融のはたらきについて理解させる。
- (5) 市場経済にゆだねられない問題について、国や地方公共団体が果たしている経済活動のあらましを理解させるとともに、その経済的役割について考えさせる。

6. 指導計画 単元名 「お金」は天下のまわりもの (14時間扱い)

項 目	学 習 内 容	時配	留 意 点
10万円あったら何に使う？	<p>《学習課題》 お金の使い道から経済を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 身近なことを通じて「経済」とは何かを考える。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 消費は経済を構成する柱の一つであり、自分たちの消費生活が経済活動と密接な関わりをもっていることに気づかせる。 <p>【基本コンセプト①】</p>
「お金」って何？	<p>《学習課題》 お金とは何か、そのはたらきと価値を考えてみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済活動における通貨のはたらきや価値について理解する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 経済活動において、お金には重要なはたらきや価値があることを事例を通して理解させる。 <p>【基本コンセプト①】</p>
「お金」にかわるもの ～クレジットカードと 上手に関わるには～	<p>《学習課題》 クレジットカードについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 信用経済に関連して「カード社会の現状とクレジットカードのはたらき」について理解する。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 身近な事例からカード社会の現状を理解させる。 クレジットカードについてはそのしくみ、はたらき、メリットとデメリットを考えさせる。 <p>【基本コンセプト①②④】</p>
	<p>《学習課題》 クレジットカードと上手に関わるにはどうしたらいいか。</p> <ul style="list-style-type: none"> アドバイスカード作りにむけての意見交換を通してクレジットカードとの上手な関わり方を考える。 	1 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 利用にあたっての注意点、管理に関する注意点の視点からの意見交換を通じて考えさせる。 <p>【基本コンセプト①②③】</p>
「お金」の橋渡し役 ～金融機関～	<p>《学習課題》 金融とは何か、銀行を例に考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 銀行の仕事を通じて金融のはたらきと金融機関の果たす役割を理解する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関が、家庭生活や企業活動の中で果たしている役割と重要性について、事例を通して理解させる。 <p>【基本コンセプト①】</p>
お金は天下をどう回る？ (1)	<p>《学習課題》 国民経済のしくみについて知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 家計・政府・企業の関連から国民経済について理解する。 	1	<ul style="list-style-type: none"> 三者が持つはたらきと互いの関連について、図表で整理しながら理解させる。 <p>【基本コンセプト①②】</p>

<p>お金は天下をどう回る？ (2)</p>	<p>《学習課題》 税について知ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・租税の意義や役割について国や地方自治体の経済的役割とも関連づけ理解する。 	<p>2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・税種についての細かな分類に終始せずに、租税の意義や役割について意見をもたせる。 <p>【基本コンセプト①】</p>
<p>お金は天下をどう回る？ (3)</p>	<p>《学習課題》 国や千葉市を取り上げ、財政について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国や千葉市の収支を通して、財政のはたらきについて理解する。 	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な具体例を通じて、財政支出について実感をもたせながら理解させる。 <p>【基本コンセプト①③】</p>
<p>価格（値段）の不思議 (1)</p>	<p>《学習課題》 市場経済とは何か、価格から探ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市場経済の基本的な考えについて価格の構成・決まり方・はたらきを通じ理解する。 	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活からの視点を大切にし、興味・関心をもたせながら考えさせる。 <p>【基本コンセプト①】</p>
<p>価格（値段）の不思議 (2) ～まちで目にする 不思議な価格～</p>	<p>《学習課題》 この不思議な価格、なぜだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で目にする不思議な「価格」の実状を知り、その理由を考える。 	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事例を取り上げ、価格の持つ効果や供給（企業）側のねらいをつかませる。 <p>【基本コンセプト②③】</p>
<p>価格（値段）の不思議 (3) ～株ってなに？～</p>	<p>《学習課題》 株って何だろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式の意味を知ることを通して、株式会社のしくみや資本主義経済について、その特徴を理解する。 	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・用語の細かな説明におちいらず、株価など株に関連した最近の動きにも触れ、関心をもたせながら理解させる。 <p>【基本コンセプト②④】</p>
<p>お得はどっち？ ～円高・円安～</p>	<p>《学習課題》 円高・円安って何だろう。どっちが得なのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・為替相場、円高・円安の意味を理解し、日常生活におけるプラス面、マイナス面を考える。 	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・海外旅行にいく場合を想定しおみやげの購入（輸入）、現地での売却（輸出）で考えさせる。 ・新聞の為替相場欄なども提示し関心を高めるようにする。 <p>【基本コンセプト①④】</p>

7. 単元の構造



8. 本時の指導

(1) 内容

「クレジットカードと上手に関わるためのアドバイスカードを作ろう。」

(2) 目標

- ①クレジットカードが広く利用されている現状をふまえ、カードの利用や管理に関する注意点を盛り込んだアドバイスカードを作るを通して、「クレジットカードとの上手な関わり方」を考えることができる。
- ②より専門的な情報や知識を得るためにゲストティーチャーとの意見交換に積極的に参加することができる。

(3) 展開 ●学習内容 ○一般的な留意点 ★研究テーマに即した留意点

時配	学習活動と内容	指導上の留意点
3	1. DVDを視聴する。	<p>○(T1) 視聴後、DVDの内容が「クレジットカードを巡るさまざまな問題」の一例であることをおさえる。</p> <p>★(T1) クレジットカードが広く使われている世の中の現状と、それに伴ってDVDにあるようなさまざまな問題が増加していることを再確認させ、クレジットカードと上手に関わるにはどうしたらいいか考えていくことを確認させる。 【基本コンセプト①】</p>
2	<p>2. 本時の学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「クレジットカードと上手に関わる」にはどのようにすればいいのか？ ～クレジットカードと上手に関わるためのアドバイスカードを作ろう～</p> </div> <p>3. 本時の学習過程を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>①クレジットカードに関する専門家であるゲストティーチャーや友人と宿題の標語について意見交換を行う。 ②友人の考えやゲストティーチャーとの意見交換を参考に、出されている標語を整理し、そのなかから適切なものを選出する。 ③選出した標語とともに『轟町中版：クレジットカードと上手に関わるためのアドバイスカード』に載せるべき補足説明の事柄を確認する。</p> </div>	<p>★(T1) 左記の学習過程で行うことを告げて意欲的に取り組むように促す。 【基本コンセプト②・③】</p> <p>○(T2) 学習課題・過程についてスクリーンに映し出し、徹底を図る。</p> <p>○(T1) アドバイスカードの完成予定作品を再度提示し、改めてイメージさせる。</p> <p>○ゲストティーチャーの経歴等については予めスクリーンに映しておく。</p>
	4. より具体的なアドバイスになるためには、どこを、どんな語句や表現に修正すればいいか、具体的に考えながら、ゲストティーチャーと意見交換を行う。	<p>○グループに分かれた際にスムーズに意見交換が始められるように、宿題で作ってきた標語は予め提出させておき、プリントに整理した形で配布しておく。あわせて、スクリーンにも映し、意見交換時に活用させる。</p> <p>★意見交換は以下の2点から行わせる。 ・内容面での間違いがないか ・表現として適切、具体的であるか</p> <p>★ゲストティーチャーにも上記2点からのコメントをお願いしておく。 【基本コンセプト②・③】</p>

15	<p>< A 利用に関する内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●無計画な利用とそれに伴う問題の発生への注意 (買いすぎ・使いすぎ) <p>< B 管理に関する内容 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ●他人へのカードの貸与への注意 	<p>★ 2つのグループに分かれて意見交換させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <p>A 「カード利用の際の注意に関する内容」 (ゲストティーチャー：クレジット産業協会)</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>B 「カードの管理に関する内容」 (ゲストティーチャー：県金融広報委員会)</p> </div> <p style="text-align: right;">【基本コンセプト①・③】</p> <p>○ T 1 は A に、T 2 は B に付き、進行・記録役となる。</p>
15	<p>5. 意見交換を参考にして、グループとして、クレジットカードと上手に関わるための標語を選出する。</p> <p>6. 選出された標語とともに載せるべき補足説明の事柄について考える。</p>	<p>★意見交換を経て、最終的に修正すべき点がある場合には修正させる。その後、グループとして適切と思われる標語を選出するよう促す。</p> <p>★細かな文案でなく、補足説明で入れるべき項目について考えさせる。その際には、前時までの学習内容の中から見つけ出すよう促す。 【基本コンセプト②・③】</p>
5	<p>7. 意見交換の様子について伝えあう。</p>	<p>★ (T 1) 各グループ代表の生徒に、選出された標語と載せるべき補足説明の順で発表させる。 (T 2) 選出された標語については、正面スクリーンに映し、読み上げて印象づける。 【基本コンセプト②】</p>
5	<p>8. ゲストティーチャーからのコメントを聞く。</p>	<p>★ (T 1) 選出された標語に関連し、社会のなかで実際に取り組み始められている施策等があれば紹介してもらおう。 また、今日の学習の様子とあわせて多くの人にも知ってもらおうように考えている旨を伝えてもらう。 【基本コンセプト③】</p>
5	<p>9. アドバイスカード作りにむけて確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・冬休みの課題として作成する。 ・以下のことに留意して作成すること。 →この授業後に自分がカードを使用した時に考えたことを参考にする →クレジットカードに関する今後のニュースに関心を持ち、参考にする。 </div> <p>10. ゲストティーチャーへの御礼をする。</p>	<p>○ (T 1) 今日の授業について内容面、態度面からコメントする。 また、アドバイスカードの作成は、冬休みの課題とすることを伝えるとともに、左記の点について補足し、確認させる。</p>

(4) 評価

- ①「クレジットカードとの上手な関わり方」を考えたかについて、意見交換を経て宿題で提出した標語の内容修正している状況（授業プリントへの記入）や他生徒の標語の内容を検討している様子（授業中の観察）から評価する。
- ②自分の考えをもって意欲的に意見交換を行うことができたか、教師による授業時の観察により評価する。